

あきあはせ

樋口一葉

青空文庫

あやしうつむりのなやましうて、夢のやうなるきのふ今日、うき世はしげるわか
 葉のかげに、初ほとゝぎすなきわたる頃を、こぞの秋 裕 ふるめかしう取出
 ぬる、さりとは心もなしや。垣の竹の子きぬゝぎすてゝ、まき葉にかゝる朝露の
 新らしきを見るもいと恥かしうこそ。

あめ
 雨の夜よ

庭の芭蕉のいと高やかに延びて、葉は垣根の上やがて五尺もこえつべし。今歳はいか
 なれば、かくいつまでも丈のひくきなど言ひてしを、夏の末つかた極めて暑かりしに唯一
 日ふつか、三日とも数へずして驚くばかりになりぬ。秋かぜ少しそよくとすれば、端
 かたより果敢なげに破れて、風情次第に淋しくなるほど、雨の夜の音なひこれこそは哀れ
 なれ。こまかき雨ははらくと音して草村がくれ鳴こほろぎのふしをも乱さず、風一し
 きり颯と降くるは、あの葉にばかり懸るかといたまし。

雨は何時いつも哀あはれなる中に秋はまして身にしむこと多おほかり。更ふけゆくまゝに燈とも火しびのかけ
 などうら淋しみしく、寝ねられぬ夜よなれば臥床ふしどに入いらんも詮せんなしとて、小切こぎれ入れたる紙 畳たた紙がみ
 とり出だし、何なにとはなしに針はりをも取とられぬ。まだ幼いとけなくて伯母おばなる人に縫物ぬいものならひつる頃、
 衾おくみ先さき、褌つまの形なりなど六むづかしう言いはれし。いと恥はかしうて、これ習ならひ得えざらんほどはと、
 家いへに近ちかき某それの社やしろに日参にっさんといふ事ことをなしける、思おもへばそれも昔むかしなりけり。をしへし人は
 苔こけの下したになりて、習ならひとりし身みは大おほ方かたもの忘われしつ。かくたまさかに取とり出いづるにも指さの先
 こわきやうにて、はか／＼しうは得えも縫ぬひがたきを、かの人ひとあらばいかばかり言いふ甲斐かひ
 なく浅あましと思おもふらん、など打返うちかへしそのむかしの恋こひしうて、無端そらに袖そでもぬれそふ心地こころす。
 遠とほくより音ねして歩あゆみ来くるやうなる雨、近ちかき板戸いたどに打うちつけの騒さわがしき、いづれも淋しみしから
 ぬかは。老おいたる親おやの瘦やせたる肩かたもむとて、骨ほねの手に当ありたるも、かかると夜よはいとゞ心細こころさ
 のやるかたなし。

つきよ
月の夜

村雲むらくもすこし有るもよし、無きもよし。みがき立てたるやうの月のかげに尺八しゃくはちの音ねの聞きえたる、上手じやうずならばいとをかしかるべし。三味さんみも同じこと、琴ことは西片町にしかたまちあたりの垣根かきねごしに聞きたるが、いと良き月に弾く人のかげも見まほしく、物がたりめきて床ゆかしかりし。親おやしき友ともに別わかれたる頃ころの月、いとなぐさめがたうもあるかな。千里ちよとのほかまでと思ひやるに、添ゆかひても行ゆかれぬ物なれば唯ただうらやましようて、これを仮かりに鏡かがみとなしたらば、人のかげも映うつるべしやなど、果敢はかなき事さへ思おもひ出いでらる。

さゝやかなる庭いけみづの池いけみづ水みづにゆられて見ゆるかげ物いふやうにて、手すりめきたる所に寄よりて久ひさしう見入みいるれば、はじめは浮うきたるやうなりしも次第しだいに底そこふかく、この池いけの深ふかさいくばくとも量はかられぬ心地こころになりて、月はそのその底そこのいと深ふかくに住すむらん物もののやうに思おもはれぬ。久ひさしうありて仰あがぎ見るに、空そらなる月つきと水みづのかげと孰いづれを誠まことのかたちとも思おもはれず。物ものぐるほしけれど箱庭はこにわに作りたる石いし一つ水みづの面おもてにそと取落とせば、さゝ波なみすこし分われて、これにぞ月つきのかげ漂たひぬ。かくはかなき事ことして見みせつれば、甥せむいなる子の小こさきが真ま似ねて、姉あねさまのする事こと我われも為すとて、硯すずりの石いしいつのほどに持もて出いでつらん、我われもお月つきさま砕くだくのなりとて、はたと捨すてつ。それは亡なき兄あにの物ものなりしを身みに伝つたへていと大事だいじと思おもひたりしに、果敢はかなき事ことにて失ななひつる罪得えがましき事こととおもふ。この池いけかへさせてなど言いへども、ま

ださながらにてなん。明ぬれば月は空に帰りにて余波もとゞめぬを、硯はいかさまになりぬらん、夜なく影や待とるらんと哀なり。

嬉しきは月の夜の客人、つねは疎々しくなどある人の心安げに訪ひ寄たる。男にても嬉しきを、まして女の友にさる人あらば、いかばかり嬉しからん。みづから出るに難からば文にてもおこせかし。歌よみがましきは憎くき物なれど、かかる夜の一ト言には身にしみて思ふ友ともなりぬべし。大路ゆく辻占うりのこゑ、汽車の笛の遠くひゞきたるも、何とはなしに魂あくがるゝ心地す。

雁がね

朝月夜のかげ空に残りて、見し夢の余波もまだ現なきやうなるに、雨戸あけさして打ながむれば、さと吹く風竹の葉の露を払ひて、そゞろ寒けく身にしみ渡る折しも、落くるやうに雁がねの聞えたる、孤つなるは猶さら、連ねし姿もあはれなり。思ふ人を遠き県などにやりて、明くれ便りの待わたらるゝ頃、これを聞たらばいかなる思ひやすらんと哀れ

なり。朝霧ゆふ霧のまぎれに、声のみ洩らして過ぎゆくもをかしく、更けたる枕に鐘の音
 きこえて、月すむ田面に落らんかげ思ひやるも哀れ深しや。旅寐の床、侘人の住家、い
 づれに聞ても物おもひ添ふる種なるべし。

一とせ下谷のほとりに仮初の家居して、商人といふ名も恥かしき、唯いさゝかの物
 とり並べて朝夕のたつきとせし頃、軒端の庇あれたれども、月さすたよりとなるにはあ
 らで、向ひの家の二階のはづれを僅かにもれ出る影したはしく、大路に立て心ぼそく打あ
 ふぐに、秋風たかく吹きて空にはいさゝかの雲もなし。あはれかかる夜よ、歌よむ友のた
 れかれ集ひて、静かに浮世の外の物がたりなど言ひ交はしつるほど、俄かにそのわたり恋
 しい涙ぐまるゝに、友に別れし雁唯一つ、空に声して何処にかゆく。さびしとは世のつ
 ね、命つれなくさへ思はれぬ。擣衣の音に交りて聞えたるいかならん。三つ口など囃して
 小さき子の大路を走れるは、さも淋しき物のをかしう聞ゆるやと浦山しくなん。

虫の声

垣根の朝顔やう／＼小さく咲きて、昨日今日葉がくれに一花みゆるも、そのはじめの事おもはれて哀れなるに、松虫すゞ虫いつしか鳴よわりて、朝日まちとりて竈馬の果敢なげに声する、小溝の端、壁の中など有るか無きかの命のほど、老たる人、病める身などにて聞たらば、さこそ比らべられて物がなしからん。まだ初霜は置くまじきを、今年は虫の齢ひいと短かくて、はやくに声のかれ／＼になりしかな。くつわ虫はかしましき声もかたちもいと丈夫めかしきを、何しか時の間におとろへ行くらん。人にもさる類ひはありけりとをかし。鈴虫はふり出てなく声のうつくしければ、物ねたみされて齢ひの短かきなめりと點頭かる。松虫も同じことなれど、名と実と伴はねばあやしまるゝぞかし。常盤の松を名に呼べれば、千歳ならずとも枯野の末まではあるべきを、萩の花ちりこぼるゝやがて声せずなり行く。さる盛りの短かきものなれば、暫時も似よとこの名は負せけん、名づけ親ぞ知らまほしき。

この虫一とせ籠に飼ひて、露にも霜にも当てじといたはりしが、その頃病ひに臥したりし兄の、夜なく／＼鳴くこゑ耳につきて物侘しく厭はしく、あの声なくは、この夜やすく睡らるべしなど言へるも道理にて、いそぎ取おろして庭草の茂みに放ちぬ。その夜なくやと試みたれど、さらに声の聞えねば、俄かに露の身に寒く、鳴くべき勢ひのなくなりし

かと憐^{あは}れみ合ひし、そのとし暮れて兄は空^{むな}しき数に入りつ。又の年の秋、今日ぞこの頃^{ごろ}な
 ど思^{おも}ひ出^いる折しも、ある夜^よふけて近き垣根のうちにさながらの声きこえ出ぬ。よもあらし
 とは思へど、唯^{ただ}そのものゝやうに懐かしく、恋しきにも珍らしきにも涙のみこぼれて、こ
 の虫がやうに、よし異^{こと}物なりとも声かたち同じかるべき人の、唯^{ただ}今^{いま}こゝに立出で来た
 らばいかならん。我れはその袖^{そで}をつと捉^とらへて放つ事をなすまじく、母は嬉^{うれ}しさに物は言
 はれで涙のみふりこぼし給ふや、父はいかさまに為^なし給ふらんなど怪しき事を思ひよる。
 かくて二夜^{ふたよ}ばかりは鳴きつ。その後は何^{いづ}処^こにゆきけん、仮にも声の聞えずなりぬ。
 今も松虫の声きけばやがてその折おもひ出^{いで}られて物がなしきに、籠^こに飼ふ事は更^{さら}にも思
 ひ寄らず、おのづからの野^の辺^べに鳴^{なき}弱^{よわ}りゆくなど、唯^{ただ}その人の別れのやうに思はるゝぞか
 し。

青空文庫情報

底本：「全集樋口一葉 第二巻 小説編二（復刻版）」小学館

1979（昭和54）年10月1日第1版第1刷発行

1996（平成8）年11月10日復刻版第1刷発行

※このファイルには、以下の青空文庫のテキストを、上記底本にそって修正し、組み入れました。

「雨の夜」（入力：加藤恭子、校正：浦田伴俊）

「月の夜」（入力：葵、校正：もりみつじゅんじ）

入力：もりみつじゅんじ

校正：浅原庸子

2003年3月23日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

あきあはせ

樋口一葉

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>